



## Information 2

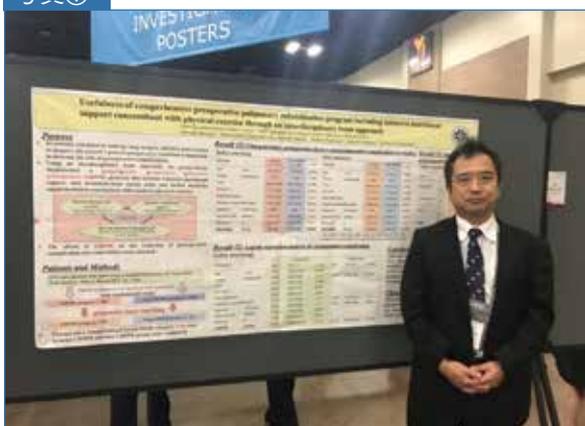
# 米国胸部疾患学会(American College of CHEST Physician 2018)に参加し、Top 5 Abstract Poster Awardを受賞

呼吸器外科 原田 洋明

2018年10月に米国テキサス州サンアントニオで開催されたAmerican College of CHEST Physicians (米国胸部疾患学会:CHEST 2018)のAnnual meetingにおいて発表した演題“Usefulness of Comprehensive Preoperative Pulmonary Rehabilitation Program

Including Intensive Nutritional Support Concomitant with Physical Exercise Through an Interdisciplinary Team Approach(写真①)”が、Top 5 Abstract Poster Awardを受賞しました(<http://chestmeeting.chestnet.org/2018/11/28/2018-chest-award-winners/>:写真②)。

写真①



写真②



本学会は、胸部疾患における世界最高峰の学会で、関連する医師(呼吸器内科・呼吸器外科・循環器内科・心臓外科・放射線科ほか)やコメディカル(理学療法士、看護師、臨床工学士、検査技師)など幅広い参加者が集い最先端の発表や討論が行われます。

今回の発表は、前勤務病院である呉医療センターで行っていた肺癌手術前に多職種が参加する包括的リハビリの有用性に関するものでした。本取り組みは非ランダム化での患者希望によるものであったため、Propensity score matching法を用いて、包括的リハビリの有無の違いによる2群のバイアスを最小限に絞った解析を行いました。医師の技量のみではなく、理学療法士、管理栄養士、看護師、生理検査技師、言語聴覚士などの多職種専門家が術前から術後にいたるまで、それぞれがその専門

性を活かしたアプローチで患者に対応する包括的リハビリが、周術期をより安全に乗り切るうえで大変重要であったという内容です。

発表会場で数人の参加者から簡単な質問を受け、周囲のポスターを見学していたところ、一人の女性が私のポスターに見入っている事に気がきました。話しかけると「この発表はとても興味があるので詳しく説明してほしい。またこの発表で特にアピールしたいことは何か?」と質問されました。なんだかちょっと変な印象を受けたのですが、帰国後数日したころメールが届き、Top5に選出されたこと、賞金とCertificationが届くことが通知されました。そしてその差出人はあの発表の際に質問してきた女性で、Scientific Presentations and Awards Committeeの委員長でした。

information2 次ページへ続く→

→ information2 前ページから続く

本取り組みについては東広島医療センターにおいても、さらに進化させたものを多職種で開始すべく、多方面の部署と現在調整中です。

なお今回、昨年度に当院呼吸器外科のレジデントであった藤原誠医師も一緒に参加し、演題発表してきました(写真③④)。当院における間質性肺炎を合併した気胸症例についてまとめた演題“Retrospective analysis of prognostic factors

in the patients of pneumothorax with interstitial pneumonia (写真⑤)”でしたが、採択率が低いハイレベルな学会において、レジデント(後期研修医)であった藤原医師が自力で考え、まとめた内容が見事に採択されたという、こちらも大変な快挙でした。この課題については、今後NHOネットワークの共同研究に応募すべく準備を進めているところです。

写真③



写真④



写真⑤

